

城かべ 古代漆喰 上塗り用

- 古代ギリシャ建築と高松塚古墳、東西の古代建築は、どちらも石灰、つまりしっくいで塗られていたのです。何世紀もの年月を耐える力を秘めた石灰。城かべ古代漆喰は、そんな石灰の力を最大限に引き出す為に生まれました。
- 従来の既調合しっくいと異なる、全く新しいタイプのしっくいです。
 - 完全な無機質材料なので長年月変質劣化しません。
 - 保存期間は無制限、時が経つほどに性能は増していきます。
 - 練り状なので、現場での面倒な作業は一切不要。



商品概要

- | | |
|------|---------------|
| ①品名 | 城かべ古代漆喰上塗り用 |
| ②性状 | 白色ペースト状 |
| ③主原料 | 消石灰、植物繊維、その他 |
| ④荷姿 | 20kg ポリ袋 |
| ⑤用途 | 壁上塗り |
| ⑥用法 | 混練不要 コテ塗り |
| ⑦塗面積 | 10㎡(3坪)/1.5mm |

城かべ 古代漆喰 上塗り用

施工要領

1. 混練

- ① 開封する前に袋の上から軽く踏みほぐしておきます。
- ② 袋から直接コテ板に取り出してお使い下さい。多く使用される場合・水と分離している場合は容器に移して練ると良いでしょう。
- ③ 油が添加されていないので、外部に使用するときには油を添加してください。
- ④ 油、ボンド等は、添加後改めて良く練りなめて下さい。
- ⑤ ご使用後の、残りの材料は袋の口を縛っておけば、いつまでも保存が可能です。
- ⑥ 固いときは少量の水を加えて下さい。

2. 下地処理

- ① 左官下地は完全に養生、乾燥させて、ボード類は目地処理をしておきます。
- ② 表面をきれいに清掃し、シーラー引きをして下さい。
- ③ 完全な仕上にするには、城かべ中塗り用で下塗りを行ない、上塗り用で仕上げして下さい。

3. 塗り付け

- ① 最初は下地に食い込むようによくこすりつけ、2回目では厚みを揃えます。
- ② 表面が半乾きの状態で金ゴテで押さえっていきます。コテ押さえの回数で壁の硬度と耐久性が決まりますので、少なくとも2～3回は丁寧に押さえてください。
- ③ 仕上がり後適当な通風をして徐々に乾燥させます。

※ 磨き仕上げ

- ① 金ゴテで充分押えた後、プラスチックゴテでまんべんなくこすって下さい。

試験項目(試験方法)

①安定性試験 (JIS-A-6902)	②表面硬度 (JIS-A-6904,6908)	③接着強度 (JIS-A-6909)	④耐候性試験 (JIS-A-5400 ウェザーメーター)	⑤凍結融解試験 (-30℃~80℃ 10サイクル)
合格	25.0	2.8kgf/cm ²	異常無し	異常無し

施工上の注意

- ① 着色や土ものとの併用かしよう油は添加していません。外壁や水かかかかる箇所へ施工する場合は、必ず「城かべ油」を混入してください。
- ② 土中塗りや付着しにくい下地には必ずシーラー引きを施してください。
- ③ コテ押さえはなるべく金ゴテを使用して、プラスチックゴテは磨きだけにしてください。
- ④ 乾燥するまでは汚れを吸いやすいので、ほこりや水跳ねに注意してください。
- ⑤ 冬期は白華が出やすいのでなるべく保温をし、5℃以下の場合施工を避けて下さい。

製造



田川産業株式会社

〒826-0041 福岡県田川市大字弓削田1924番地

TEL 0947-44-2240

FAX 0947-44-8484